

きたかみ農業ビジョン改訂の概要

改訂の目的

平成25年4月に策定した計画から約4年が経過したが、農業については、国の政策やとりまく情勢等が変化したことについて反映するとともに、木材需要の高まりに対応して林業分野を追加し、「きたかみ農林業ビジョン」として改訂するもの。

農業ビジョンについて、国の農業・農村政策変更等に対応した内容に変更

現行ビジョン策定（平成25年4月）以降に大きく変化のあった事項を現状に即した内容に変更する。

- ・「農林水産業・地域の活力創造プラン」（平成25年12月閣議決定）

農林水産業・地域の活力創造プラン(平成25年12月) ～4つの改革～

農地中間管理機構の創設 経営所得安定対策の見直し 水田のフル活用と米政策の見直し 日本型直接支払制度の創設

- ・米価下落（平成26年）
- ・T P P（環太平洋戦略的経済連携協定）やF T A（自由貿易協定）への対応

林業ビジョンを追加

林業を取り巻く状況の変化を踏まえ、林業についてのビジョンを新たに追加する。

【現状】 ・大手合板工場が立地するなど、木材需要が増加している。
・人工林の多くが利用期を迎えている。

【主な取り組み】 ・計画的な施業を推進し、安定的な木材供給体制を構築する。
・林業従事者の育成と新規就業者の支援を行う。

林業が産業として成り立つことにより、森林所有者の所得向上となり、地域の活性化につながる。

きたかみ農林業の取り組むべき課題

きたかみ農業の課題

優れた経営体の育成	新規就農による中核的農業者の育成	農地の利用集積による生産コストの低減	園芸作物の栽培促進と産地化
6次産業化の推進による高付加価値化	二子さといも、きたかみ牛のブランド化	水田を活用した非主食用米や高収益作物栽培	食の安全安心につながる環境保全型農業

きたかみ林業の課題

林業経営の集約化	高性能林業機械の導入による生産コスト低減	作業路網の不足	森林所有者や境界の不明化
木材需要に対しての安定供給	林業の担い手の不足	荒廃が進んだ森林の増加	森林病害虫被害の増加

きたかみ農林業ビジョン

構成の変更

きたかみ農業ビジョン(平成25年4月)	きたかみ農林業ビジョン(平成28～32年度)
1 きたかみ農業ビジョン策定の趣旨	<u>I</u> きたかみ農林業ビジョン策定の趣旨
2 北上市の農業をとりまく情勢	<u>II</u> 北上市の農林業をとりまく情勢
2-1 北上市の概要	<u>II-1</u> 北上市の概要
2-2 北上市をとりまく社会経済の情勢	<u>II-2</u> 北上市をとりまく社会経済の情勢
	<u>III</u> これからのきたかみ農業
2-3 国、県、農協の農業施策	<u>III-1-1</u> 国、県、農協の農業施策
2-4 北上市の農業の現状と課題	<u>III-1-2</u> 北上市の農業の現状と課題
3 これからの北上農業	<u>III-2</u> 全体の方向
4 具体的取り組み	<u>III-3</u> 具体的取り組み
5 営農体系別農業	<u>III-4</u> 営農体系別農業
6 地域別農業(現状と今後の方向性)	<u>III-5</u> 地域別農業(現状と将来のあり方)
7 農村社会	<u>III-6</u> 農村社会
	<u>IV</u> これからのきたかみ林業
	<u>IV-1</u> 北上市の森林・林業をとりまく情勢
	<u>IV-2</u> 全体の方向
	<u>IV-3</u> 具体的取り組み
8 資料	<u>V</u> 資料

改訂スケジュール

項目	H28年3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			H29年1月			2月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
基礎調査・素案作成				見直し骨子作成												本文作成																				
関係団体意見聴取																																				
策定検討委員会															● 22																					● 16
関係部課協議																● 1																				● 19
二役協議																																				● 6
農政審議会																																				● 13
市議会全員協議会																																				
パブリックコメント																																				
庁議																																				● 20

計画期間

ビジョンの期間は、「北上市総合計画」に合わせ平成32年度までとし、進捗状況、成果、社会経済情勢の変化に応じて、見直しを行う。

計画期間 : 平成25年度～平成32年度

これからのきたかみ農業

【基本目標】 高い技術力と経営力をもとに、産業間の連携で収益力を向上させ、成長産業として発展し続ける「きたかみ農業」

<p>1 優れた経営体の育成と確保</p> <p>農業従事者の減少と高齢化が進行する中、これからの地域農業の中核となる「優れた経営体の育成と確保」は喫緊の課題です。</p> <p>★新規就農者受入体制の強化 【指標】新規就農者数(年間) 15人(H27)→15人(H32)</p> <p>★農業経営の高度化、集落営農・法人化の推進 【指標】集落営農組織数 19組織(H28.3)→27組織(H32) 【指標】農地所有適格法人数 30法人(H28.3)→36法人(H32) 【指標】担い手への農地集積率 58.22%(H28.3)→70.0%(H32)</p>	<p>3 地域特性を活かした農業・農村の振興</p> <p>農業者の減少と高齢化の進行により、農村社会の弱体化が懸念されており、農産物や農村環境などの「地域の特性を活かした農業・農村の振興」が以前にも増して重要となっています。</p> <p>★産直施設等を拠点とした起業の推進 【指標】主要産地直売所販売額 262,734千円(H26)→305,000千円(H32)</p> <p>★環境保全型農業の推進(新規) 【指標】環境保全型農業直接支払交付金実施面積 334ha(H28.3)→367ha(H32)</p> <p>★地産地消・食育の推進 【指標】市内産農産物を進んで購入しようとする人の割合 79.0%(H26)→82.0%(H32) 【指標】地場産野菜利用率(学校給食) 35.9%(H27)→35.0%(H32)</p> <p>★北上市機械化農業公社の機能強化</p> <p>★「農業特区」導入に向けた研究</p>
<p>2 収益力の向上</p> <p>農畜産物価格の低迷による農業所得の減少や資材費高騰によるコストの増大で、経営環境が悪化していることから、「収益力の向上」を目指して、6次産業化や園芸の産地化等、組織的な取り組みが不可欠です。</p> <p>★農業者をサポートする北上市農業支援センター 【指標】対応(訪問・来訪・電話)件数(累計)(開設以来)76件(H28.9)→1,000件(H32) 【指標】相談完結件数(累計)(開設以来)76件(H28.9)→900件(H32)</p> <p>★6次産業化等の推進 【指標】補助金活用による売上(H27からの累計) 4,439千円(H27)→62,505千円(H32)</p> <p>★情報技術を活用した農畜産物の販売促進 【指標】ふるさと納税返礼品(農畜産物)提供者が開設するインターネット店舗数 6店舗(H28.3)→12店舗(H32) 【指標】ふるさと納税返礼品(農畜産物)額 67,296千円(H27)→117,000千円(H32)</p>	<p>★栽培技術承継のための仕組みづくり 【指標】「農業農村指導士」、「農の匠」、「農協各専門部」指導件数 48件(H27)→72件(H32)</p> <p>★農地中間管理機構との連携による農地集積 【指標】担い手への農地集積率 58.22%(H28.3)→70.0%(H32) 【指標】荒廃農地面積 14ha(H28.3)→8ha(H32)</p> <p>★作付不利地の改善 【指標】ほ場整備率 73.3%(H26.3)→73.4%(H32)</p> <p>★非主食用米の推進(新規) 【指標】飼料用米、加工用米、備蓄米、WCS用稲の合計面積 928ha(H27)→1,044ha(H32)</p> <p>★転作田を活用した高収益作物の栽培促進 【指標】重点振興作物及び振興作物の合計面積 148ha(H27)→170ha(H32)</p>

これからのきたかみ林業

【基本目標】 森林資源を産業振興につなげる「きたかみ林業」

<p>1 持続的な林業と木材産業の振興</p> <p>林業と木材産業の振興を図るため、計画的な施業により市内の森林から効率的に木材を切り出し、市内企業等へ安定的に供給できる体制の構築を推進します。また、森林資源の有効活用を推進します。</p> <p>★森林経営計画策定の促進 【指標】森林経営計画認定面積 1,168ha(H28.3)→1,890ha(H32)</p> <p>★森林施業の集約化 【指標】私有林からの素材生産量 3,839m³(H21-26)→4,800m³(H32)</p> <p>★路網の整備 【指標】作業路開設距離数 67,917m(H28.3)→89,717m(H32)</p> <p>★境界、所有者の明確化</p>	<p>2 人材育成の推進</p> <p>当市の林業を支える人材の確保、育成の支援に積極的に取り組んでいきます。 また、次世代を担う子どもや地域住民へ森林への関心を高める取り組みを行い、市民と協働で森林づくりを進めます。</p> <p>★自伐型林業の推進と多様な担い手の確保・育成 【指標】林業研修会等の開催支援案件数(年間) 1件(H27)→3件(H32) 【指標】林業従事者数 40人(H27)→40人(H32)</p> <p>★専門知識・技術を持つ人材との連携</p> <p>★森林所有者への普及啓発 【指標】林業座談会参加者数 100人(H27)→150人(H32)</p> <p>★体験学習できる環境づくり 【指標】イベント参加者数(年間) 833人(H27)→900人(H32)</p> <p>★緑の少年団活動の支援 【指標】緑の少年団登録数 5団体(H28.3)→5団体(H32)</p>	<p>3 健全で豊かな森林づくり</p> <p>間伐等の森林整備を計画的に推進し、森林の持つ、水源のかん養、山地災害の防止、木材の生産など様々な機能を高度に発揮させるとともに、森林病虫害の拡大防止に努めるなど森林を適正に保全して、健全で豊かな森林づくりを推進します。</p> <p>★計画的な森林管理 【指標】森林面積 25,015ha(H27.3)→25,015ha(H32) 【指標】人工造林面積 7,976ha(H25.3)→8,010ha(H32) 【指標】除間伐面積(年間) 63.54ha(H27)→100ha(H32)</p> <p>★森林病虫害対策の推進 【指標】森林病虫害防除処理量(年間) 184m³(H27)→180m³(H32)</p>
<p>★環境を重視した森林の保全</p> <p>★治山事業による対策の実施</p> <p>★森林に関する各種制度の適正運用</p> <p>★森林総合利用の推進 【指標】イベント参加者数(年間) 833人(H27)→900人(H32) 【指標】緑の募金額(年間) 2,195千円(H27)→3,090千円(H32)</p> <p>★地球温暖化防止への貢献</p>		

〔凡例〕
★最重点分野
☆重点分野